

鏡川流域パートナーシップだより No.171 R6.8.21

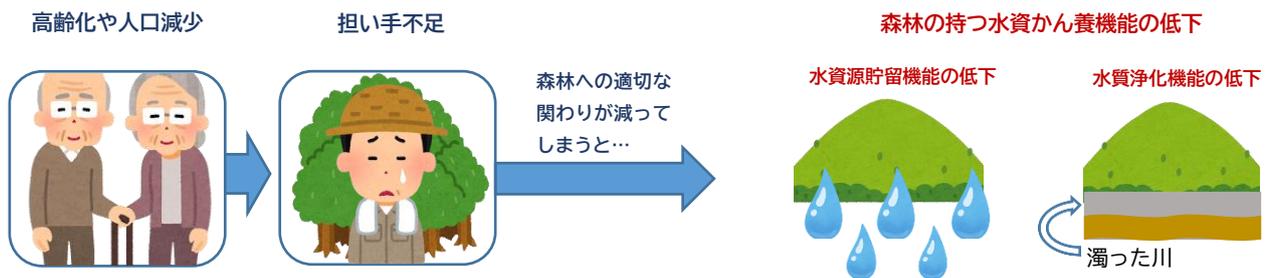


新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

鏡川上流域の課題について理解を深めよう！

今回の「鏡川流域パートナーシップだより」は、インターンシップ生の小松（龍馬情報ビジネス&フード専門学校公務員学科1年）が担当させていただきます。今回は、私に関心を持っている鏡川上流域の高齢化がもたらす水資源への影響について紹介します！

上流域の人や暮らしと水資源の関係



近年、鏡川上流域でも、高齢化などに伴う担い手不足は深刻な問題となっています。人の適切な関わりが減少することで、上流域の森林や農地の整備・維持が難しくなり、本来森林がもつ水源かん養機能が低下してしまいます。そうすると、土地が水を貯えられず河川の急な増水や土砂の流出を防げなくなったり、土壌にしみ込む間に浄化するはずの水を保てず水質が悪化したりと、様々な問題が生じます。

私たちの美しい鏡川や流域の人々の暮らしを守るためにも、鏡川流域の人々とのつながりを意識してみましょう！まちのコイン「ぼっちり」では様々な体験を利用できます。流域の人々との関わり方は多様です！ご自身が興味を持った体験にぜひご参加ください！

私も、「Feel度 Walk×Biome in 鏡川ど上流」に参加し、鏡川上流域に関わりました！

8月19日（月）、鏡川流域関係人口講座3期生の藤澤佑介さんが主催したイベントです。生物判定機能を備えたスマホアプリ「Biome」を使って鏡川上流（鏡吉原）で現地学習をし、撮った写真をスケッチして皆で共有しました。



スケッチを共有することで、同じ物事でも自分とは違った視点や考え方があったことが分かりました。今回のような人々の関わりによって得られる学びはたくさんあると思いました。

一人でも多くの、鏡川流域の人々と関わるのが美しい鏡川を守ることにつながるのではないのでしょうか。



↑今回のイベントでは新たにこの植物を見つけて「Biome」で判定しました！

私の関心ごとをもとに、まちのコイン「ぼっちり」の体験チケットを作成しました。



「地球にある水のうち、私たちが生活用水として利用できる水（淡水）は何%でしょう。

①20% ②2.5% ③15%のうち、正解だと思う番号を送ってください」という問題です！

現在、28人の方が挑戦してくださっています！

ぜひ、多くの方に挑戦していただき、鏡川流域や水資源について関心を持っていただきたいです。



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android